

## 移動市役所議事録【北川中学校区(10月31日(水)開催)第2部 市長懇談】

質 問	市長の回答	進捗状況
<p><b>【林道の維持管理について】</b></p> <p>森林組合の災害班をやっている。仕事で林道を利用している。側溝があるが、そこに土砂など溜まって水がはけない。車も走れない。この台風後の維持管理について、日ごろから側溝の整備をしていただきたい。</p> <p>また、法面の崩壊が台風時期によくある。白石地区は、法面が高くてよく落ちる。落ちたら全然通れなくなる。査定がおりても事業化できない。近くの基幹林道が1年近く止まっている。この1年まともにスムーズに走ったことがない。そういった林道がたくさんあると思う。そういった林道の維持管理の仕方をもう少し考えてほしい。</p>	<p>台風が来た時も大変だが、通常の状態でも林道は決して十分ではないと言われる管理状況で様々な問題があり、いろんなご意見をいただいている。このままではいけないという危機感をもっており、最終的には予算を従来のように増やしていかなければならないというのは明らか。全体の限られた予算の中で、バランスを見ながら考えなければいけないと思う。少なくとも現状のままではいけない。これは林道に限らず農道や市道も同じだが、どうやって、どの程度予算を措置していくか、そして予算を付けた後、総合支所が判断してすぐ動けるようにしていく措置もしていく必要がある。そういったところを少しでも充実させていきたいと考えている。これは北川に限らず他のところでも起きているということなので何とかしなければと痛切に感じている。</p>	<p>皆さまのご不便な状況を少しでも改善を行うため、北川総合支所をはじめとする三北には、合衆国づくりの一環として、道路維持補修予算の増強を行ったところです。これにより、今まで行き届かなかった見通しの悪い林道の草刈を年2回程度行えるようにし、また、側溝の詰まりや土砂流出などの対応がすぐにできるようにしたところです。また、その予算をよりスピード感をもって行うための措置として、事務決裁規定の見直しにより、一定金額までの予算の執行が、総合支所内で決裁が済むように改善を行い、近くその運用を行うよう予定にしております。この措置で、大幅な事務処理のスピード化が図られることとなります。このように今後対応を図りながら、また、微調整を加えながら、より良い合衆国づくりを行ってまいります。</p> <p><b>【林務課】</b></p> <p>○「林道維持補修事業」【拡充・増額】 (H31 年度予算：33,500 千円)</p>

## 移動市役所議事録【北川中学校区(10月31日(水)開催)第2部 市長懇談】

<p><b>【上赤地区の道路の舗装について】</b></p> <p>自分の地区は、過疎化で高齢化、若い人が少なくなっている。上赤地区は道路が舗装されて40年くらいになる。市道なので、穴が開けばそこを埋めてはもらえるが、一雨来たらまた穴が開いてしまう状態。砂が流れて危険な状態。路面も川端が下がってしまっている。上の方には農地があるが、農地の方にも水が入ってくる。どうか舗装をお願いしたい。これから高齢化になれば地域が無くなるかもしれないが、早めをお願いしたい。</p>	<p>何とかしなければならないところはたくさんある。一気にやるというのは現実的に難しい。従来よりは少し取り組みを充実していくところからやっていく。しかも予算の使い方について、現場で即断・即決できるように総合支所の方で動ける余地を広げていく。そうすれば、即対応できないといった状況を解消し、その場で即決できる。ここまでは出来る、出来ないと言った返事を責任もつていえる責任者を現場に置き、権限を持たせ、そういったことも併せて行いたい。</p> <p>ただ、舗装に関しては、早くやった方がいいところは現実にはかなりあるので、まずは全体の予算枠を増やしていきたい。来年度予算は、今までよりは改善を図っていききたい。また再来年度以降も改善を図り、取り組ませていただきたい。</p>	<p>要望されている路線は、上赤地区と祝子川地区とを結ぶ「市道 木戸屋岩スリ線」になります。</p> <p>従来より幹線市道でもあることから舗装の経年劣化が進行し、毎年部分的な補修を繰り返し実施している路線であります。しかし、本年度より道路維持補修事業の予算を増額しましたので、その予算分を活用し、幹線市道の舗装打替工事を年次的に実施する予定としており、その中の1路線として当該路線の打替工事を行う事としています。</p> <p>なお、農地への水の流入につきましても降雨時の流入状況を見ながら、対応を検討していきます。</p> <p><b>【土木課】</b></p> <p>○「道路維持補修事業」【拡充・増額】 (H31年度予算：215,148千円)</p>
--	---	---

## 移動市役所議事録【北川中学校区(10月31日(水)開催)第2部 市長懇談】

<p><b>【若者の市政への参加について】</b></p> <p>今日は、どのような人たちが集まるか楽しみにしてきたが、相変わらず同じメンバーだと感じた。もっと若い人たちの集まりが出来ないだろうかと思ふ。北川は特にそういう状況があると思ふ。他の地域もこういった懇談があると思ふが、どこもこういった状況なのかなと感じている。若い人たちを取り込んでいける方法はないのか。せつかく市長が来て市の政策など話をしてくれるのに、もったいない。こういった市長の考え方がもう少し若い世代の人たちに伝わり、行政に関わっていけるといいと思ふ。</p>	<p>より若い人にもっと関わっていただければと思ふ。北方は比較的若い方の参加をいただき、実際に北方のイベントなど地域を上げて運営している方の話も聞くことが出来た。またPTAの役員をされている方からは教育に関するご意見をいただくことも出来た。そういった若い方、子育てをしている世代の立場から、また町づくりを第一線で頑張っている人たちの経験から本当に貴重なご意見を聴くことが出来たと思っている。今回もいろんな方に来ていただくようご案内をさせていただいているが、更に工夫をしてもっといろんな方に参加していただけるような形を作りたいと思ふ。</p> <p>ちなみに、「移動市役所」とは別に、「出前市長室」というものを行っている。先日も岡富地区で出前市長室を行った。そこには私だけでなく懇談のテーマとなる担当課の職員も伺って地域の方と話をする。そういった取り組みの中では若い方のグループの申し込もすでにある。</p> <p>いずれにせよ、常々考えていることは、若い世代を含め、もっとも市民の声を聞く、或いは来てもらうようにしなければならない。従来の広報の仕方というは新聞や回覧板等で伝えるというのがこれまでの手法だったが、今の若い方は新聞を取っていない人が多かったりということもあるので、今後、情報発信の仕方を複数の方法(視点)で考えて行かなければならないと思っている。既にSNSの活用も行っているが、もっと若い人に参加してもらえよう、さらに努力をし、なるべく多くの人に意見をぶつけてもらえるようにしたい。</p>	<p>今後、これまで以上に若い方が参加していただけるよう、市としても開催の工夫や情報発信などの工夫を行っていきたいと考えております。</p> <p><b>【経営政策課】</b></p> <p>○「新たな広報のあり方検討事業」【新規】 (H31年度予算：315千円)</p>
---	--	--

## 移動市役所議事録【北川中学校区(10月31日(水)開催)第2部 市長懇談】

<p>【鏡山の風車の撤去について等】</p> <p>鏡山に風車の遺物が残っている。見るも無残な姿で数十年経っている。是非、早急に解体をしていただきたい。見た目に非常に淋しい残骸になっているので検討していただきたい。</p> <p>もう一点は、先程から農地の水害対策の問題が出ている。この根本的なところは、河川敷の土砂の堆積で河床が何メートルも上がってきているということ。水害対策を場当たりのやるのではなく、この小川沿いなりR326の川沿い、その地区に1、2か所、川に下りていただいて川から陸を見ていただくとこれが原因だと一目瞭然わかる。何とか時間を作っていただいて見ていただけたらと思う。</p>	<p>鏡山の件だが、撤去するときにくら掛かるとか、かつて総合支所または北川町時代でも見積もったことはあると思う。勿論あっても役に立たず、何かあった時に危ないという状況である。一方で、お金がいくら掛かるとい現状もあるので、どうするべきかをさらに検討させていただきたい。</p> <p>また、川幅、河床の掘削についてだが、土砂を撤去しないとそこからまた水が積みあがっていくので早く取り除いて貰わなければならない。先程も申し上げたが、例えば曾立谷川は市の管理なので、その土砂をとということであれば市が行うことになるが、北川や小川は県の部分になるので県にやって貰わなければならない。県には再三言っている。県は危ないところから優先的にやっているということなのだが、ざっと見た限りまだまだ残っている状況。また、川の樹木や草取りという話もあるが、ここにそれが残ったままだから、そんな被害が出るということもある。そこについては、我々から県に働きかけを行うということが基本的なやり方になるが、先週も国に行って、県も財源の問題で動けないので国にも応援してほしいと強く申し上げてきた。そして補正予算の第二次も組むということなので何とか追加予算の確保のお願いもしてきた。今日お聞きした声も県や国に伝えながら少しでも土砂の掘削や撤去が進むよう働きかけて行きたい。また、撤去した土砂をどこに持って行くかという問題も伴ってくる。これまで同様、地域の皆様のご協力も必要となってくるので、より地域の皆様方と連携して協力体制を作っていきたい。</p>	<p>鏡山については、牧場経営者が新たな6次化の取組なども検討されており、その動向も見ながら今後の対応を検討していきたいと考えております。</p> <p>また、河川の土砂の撤去については、県が平成31年度予算において、これまで以上に取り組むとのことであるので、今後もその動向を見ながら必要な働きかけを行ってまいりたい。</p>
--	---	---

## 移動市役所議事録【北川中学校区(10月31日(水)開催)第2部 市長懇談】

<p><b>【生活道路の工事について等】</b></p> <p>生活道路でもなかなか工事が出来ていない部分がある。今は査定を受けた土地でないと工事が出来ない。2、3か月そのまま残っている。出来るだけ早く進めてほしい。</p> <p>北川地区でも子どもの数が減ってきている。今後、高校生が延岡市内に通う時に、通学が問題になってくる。その対策を考えて行かなければならないのではないか。</p> <p>また、農林業の話で、新規で入ってくるときに非常に大きな資金がいる。ある程度まとまった資金があるので、新規就農にかかる市の補助・対策を検討してほしい。</p>	<p>生活道について、さきほど林道の話もあったが、市道についてもそういった問題が多い。ご質問の中で「査定を受けてから」という話もあったが、これは、市としても予算がないため予算を工面する中で、災害などの対応と一緒に工事が出来たらということで、対応が遅くなっているというご指摘かと思うが、私はそれがいい状態であるとは思っていない。その状況というのは地域の人の動きが停滞してしまうということ。非常に不便を感じるということになるので、なるべく予算の総額を増やし、いちいち本庁が判断をするというのではなく、現場で判断し、現場で動ける余地を広げたいと思っている。この二つが必要だと思っているので、ある程度来年度の予算の枠を拡大することプラス総合支所長の判断ですぐに動けるようにするといった余地を大きく増やしていきたい。それでもできない問題等も残るかもしれないが、以前よりは良くなってきたと言われるような状態を着実に作っていききたい。是非来年度の予算編成までに実現したい。</p> <p>また高校生の通学体制について、やはり交通というのは今後大変重要になってくると思う。先程免許証を返納しなければならない人が増えてきているという話をしたが、バス交通の問題は、高齢者だけでなく若い世代、高校生などにも大事な問題になるので、是非、バスの確保というのもスクールバスだけでなく路線バスなど、その組み合わせも含めて考えなければいけないと思っている。</p> <p>ちなみにスクールバス自体、利用の仕方によっては一般の方にとっても交通手段の一つとなる。全国的な例を申し上げると、スクー</p>	<p>平成 31 年度予算では、三北地域における道路改修等の予算を約 1 億 8 千万円増加しました。</p> <p>まだ十分ではないと思いますが、そのような対応に加え、支所がこれまで以上にスピーディーに動くよう決裁規定の簡素化も行い、より機動的な対応を行っていきたいと考えています。</p> <p>また、高校生の通学の利便性向上も含め、バス交通ネットワークの充実を図っていかねばならないと考え、平成 31 年 4 月から新たに交通政策課設けるとともに、市内数ヶ所で新たな路線の実証運行も行いたいと考えておりますので、今後積極的に座談会等にご参加くださいますようお願いいたします。</p> <p>また、新規就農への支援についても、市独自の支援策も含め取り組んでいく考えです。</p> <p><b>【土木課】</b></p> <p>○「道路維持補修事業」【拡充・増額】 (H31 年度予算：215,148 千円)</p> <p><b>【交通政策課】</b></p> <p>○「地域住民連携型有償運送構築事業」【新規】 (H31 年度予算：14,018 千円)</p>
--	---	--

## 移動市役所議事録【北川中学校区(10月31日(水)開催)第2部 市長懇談】

	<p>ルバスが動いている時間帯に市民の方が生徒と一緒に乗って必要な場所まで行く。逆に、スクールバスが動いている時間は児童生徒でいっぱいだから、それ以外の時間に空いているバスを使って住民の方に乗ってもらうという方法もある。これはタクシー会社等との調整も必要になるが、そういった実例もあり、今年度そういった調査費も予算化している。高齢者や学生さんたちのさらなる交通の確保に取り組みたい。</p> <p>新規就農については、もっと進めて行かなければならないと思っている。やる気になった人を応援するというのは大事だと思う。ちなみに、農水省の制度というのは、新規就農の対象を「専業」に限定しているものがほとんど。延岡の場合は「兼業」が多い。また、農家の後継者にとっても事業を始めるときは「新規就農」とみていいのではないかとということで、延岡市独自でそういった方々についても補助できるような制度をやり始めている。そういった部分もしっかり取り組ませていただきたい。ハウスに関しては、バス化構想の予算を見直し、もっと一次産業が潤うように、6月補正予算で組み替えた。その中でハウスの補助金というものをもっと増やしたうえで、三北の急傾斜のところは補助額を増やすということで、三北のように地形が厳しいところは上乘せをしてという制度をささやかではあるがハウスに関して応援をさせていただいている。このように少しずつではあるが、取り組んでいるので、それをまた少しメリハリをつけて行きたい。</p>	
--	--	--